

24/6/26 名古屋市議会本会議午後 名古屋城部分

名古屋市民オンブズマンによる、半自動文字起こしアプリによる文字起こし

議長：次に、西川ひさしくんにお許しいたします。

西川ひさしくん。

西川ひさし（自民）：それでは、議長よりお許しをいただきましたので、通告に従い、順次質問をさせていただきます。

まず初めに、名古屋城における博物館構想についてであります。尾張名古屋には、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康様と誰もが知る3英傑を始めとして、金沢を作った前田利家、熊本は加藤清正、土佐の山内一豊、長野では広島では福島正則、そして徳島へは蜂須賀小六さんなどなど、日本全土へ派遣をされ、その後の日本国内各都市の成り立ちに大いなる影響を与えることとなった

この地域ゆかりの武将は、数え上げればきりがありません。

かの源頼朝も熱田区出生と言われております。

まさにこの名古屋武将の聖地と言える地域なのであります。

また、名古屋は城で持つ尾張名古屋城で持つという言葉があります。

名古屋城は、関ヶ原の戦いに勝利をし、江戸幕府を開いた徳川家康が天下万民に圧倒的な力を見せつけるために、そしてまた、西方への軍事的拠点として、傘下の諸大名に命じて築城させたものであります。

414年前の出来事であります。現在にいたっては、名古屋を代表する文化財であり観光拠点でもある名古屋城、年間の入城者数は200万人を超えております。

インバウンド獲得を目指す名古屋、愛知県内における訪日外国人の一番の人气が、名古屋城であることも周知の事実であります。今後、日本への外国人旅行者が増え、2026年にはアジア・アジアパラ競技大会の開催も控えている中で、

名古屋城の来場者もますます増えていくことと思えます。

訪問者のSNS発信などによる更なる来城者獲得のためにも、今まさにその投資を行う絶好のチャンス到来なのではないでしょうか。

現在名古屋城では特別史跡名古屋城跡保存活用計画に基づきまして整備を進めております。特別史跡としての本質的価値を高めるために、これ400年以上も前に命がけて実際に積まれた当時、それこそまさに本物の石垣などの遺構の修復や植栽の整備、または説明板の整備によって、名古屋城の魅力アップを目指しておられます。

こうした整備はもちろんのことでありますけれども、加えて名古屋城にはならでの魅力があります。

そうです。先ほど述べさせていただきました、この地ゆかりのある多くの戦国武将の存在であります。

そしてその武将にはともに歴史を切り開き、紡いできた刀や甲冑といった武具も切っても切り離すことはできません。

武士の魂であります。

日本刀は、玉鋼という素材並びに折り返し鍛錬という日本固有の古来から受け継がれてきた伝統工芸技術の結集により生み出されたものであり、鎌倉時代や室町時代の手入れの行き届いたといった日本刀の光り輝く波紋を眺めるとき、悠久の歴史を感じるとともに往時に思いを馳せることができるのであります。

最近では歴女や刀剣女子など、さらには、刀を擬人化したオンラインゲーム等々により、新たなファンも急増しております。またこの古来の美しさを、現代においても奇跡的にまもっている日本刀は、世界のコレクターからの美術品としての評価も非常に高く、唯一無二の伝統文化の貴重な財産。

そこにまた円安という状況も加わってしまい、海外のコレクターへと流出してしまっているという心配の声もお聞きするほどであります。

外国人観光客にとって、こうした我が国日本の貴重な武具は、名古屋城の魅力向上においてとても有効なアイテムであると思います。

以前、金シャチ横丁の第2期整備では、名古屋城における博物館構想が掲げられていたようではありますが、

そこには、国内外からの来訪者に対して、名古屋城の価値や魅力をより深く知ってもらうため、名古屋城に関する文化財やその歴史をはじめとした様々な情報を発信するガイダンス機能を整備していくこととしてありました。

具体的な整備内容についてはこれからのようではありますが、武将、刀剣、甲冑などの武具と名古屋ならではのブラッシュアップし、コンセプトやテーマを絞った特徴的な内容の博物館とすることで、名古屋城の魅力を他の地域のお城とは差別化することにより、一段と際立たせることができるのではないのでしょうか。

昨年市民の方から、私の中学校の先輩であります加藤さんですけれども、名古屋城に非常に貴重な刀、甲冑など26点を寄贈していただくことができました。その先輩からも、ぜひともこの尾張名古屋の貴重な歴史を多くの皆さんに知ってもらうために、武家文化にテーマを絞った歴史博物館を、この名古屋に設置してもらいたい。そういった強いお声もいただいております。そこで、観光文化交流局長さん、名古屋の価値や魅力といっても様々着点着眼点があることとは思いますが、国内外における更なる来場者の獲得のためにも、新たな名古屋の魅力として、名古屋城の歴史を彩る戦国武将やサムライ文化の象徴であります

刀や甲冑などの武器、そしてまた歴史を博物館の展示として注力していくべきだと考えますが、いかがでしょうか。

観光文化交流局長さんに、お伺いさせていただきます。

佐治観光文化交流局長：観光文化交流局には、名古屋城における博物館構想についてお尋ねをいただきました。

名古屋城におきましては、特別史跡名古屋城跡保存活用計画に基づき、保存活用に向けた整備を進めているところでございますが、その価値や魅力を発信するガイダンス機能が不足していると認識しております。

名古屋城の本質的価値といたしましては、御三家筆頭の尾張徳川家の居城として築城された城郭であること。また、現存する遺構や詳細な資料が存在していることや、現在の名古屋と続く都市形成のきっかけとなった城跡であることなど、極めて高い価値を有した文化財であるという点が挙げられるところでございます。

その価値を正しく理解していただくためにも、現在の博物館構想におきましては、城郭をテーマとして、日本の城郭の特徴を紹介するとともに、名古屋城や尾張藩を中心とした展示を行い、名古屋城の魅力や価値および名古屋の歴史を紹介する内容としてまいりたいと考えております。

特に名古屋城では、城郭武家文化を象徴する文化財として刀だけでなく、甲冑や火縄銃なども所蔵しており、かつては現天守閣においても歴史を伝える資料として、武具などの展示が行われていたことに加え、令和5年には、市民の方からも刀剣等の武家文化に関わる品々の寄付を頂戴していることから、これらを活用した展示を検討してまいります。

また、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康を始めとした戦国大名など当地域にゆかりのある歴史上の人物は、名古屋の歴史を理解していただく上では欠かせないものと認識しておりますことから、それらに焦点を当てた展示につきましてもあわせて検討してまいります。

日本人観光客に加え、外国人観光客にも満足していただき、名古屋城とともに長く滞在いただける博物館ゾーンとして整備することを見据え、名古屋市博物館や秀吉清正記念館、徳川美術館などとも連携して

名古屋にしかない魅力を十二分に活用した、日本を代表する城郭博物館を目指してまいりたいと存じます。

以上でございます。

西川ひさし（自民）：それぞれご答弁ありがとうございました。

続きます。名古屋城における博物館構想について再質問させていただきます。

佐治局長さんからは、博物館の特徴として戦国武将や武具などの展示を特徴とする博物館を検討していただけるとのご答弁をいただきました。

本当に前向きなご答弁ありがとうございます。

しかしながら、現状はまだまだ構想でありまして、博物館の事業候補区域としては、金シャチ横丁義直ゾーンの南側であろうかと思いますが、まだ想定となっております。これ想定のままでは、いつまでたっても実現に至ってまいりません。実現に向かっていくためには想定から決定に移行してもらって、そしてまた次のステップへと、この勢いを持って進めていく必要があると思います。そこで、この地域の武家文化に造詣も深い松雄副市長さん、再質問させていただきたいと思っております。

外国人観光客も増えていく中、夢ある尾張武将の心伝承館というような、私イメージしてるんですけども、我ながらぴったりのイメージだと思うんですが、そうした事業、この事業の一刻も早い実現を目指していかれるべきだと考えておりますが、この正式な事業の区域の決定とともにそれをいつ目指されるのか。

お答えをいただきたいと思います。

松雄副市長：名古屋城博物館構想につきまして事業区域の決定時期につきましてお尋ねをいただきました。

博物館構想の事業方法区域といたしましては、名古屋城正門前の金シャチ横丁義直像の南側、具体的には現在の東海農政局や水資源機構の庁舎がある敷地を含む街区を想定をいたしております。現在国における庁舎再編の動きも進んでいる状況でございます。

議員ご指摘の通り、構想を次の段階に進めていくためには、事業区域を正式に決定する必要がありますので、私が先頭に立って、国および関係機関と調整し、年内にも結論を得られるよう鋭意取り組んでまいります。

どうぞお力添えを賜りますようよろしくお願い申し上げます。

西川ひさし（自民）：はい松雄副市長さん本当に責任あるご答弁、名古屋市を代表してのご答弁ありがとうございます。

先ほど申しあげました剣の類、昨年ご寄付をさせていただいたものを素晴らしいものがいっぱいあるんですね。

あの、例えば家康さんが持たれていたと言われる短刀、そしてまたその後その短刀は、明治天皇に献上されたというものなんですけれども。

ここに写真があります。

見えないと思います。はい、見えないと思います。こうした家康さんの由来の短刀を始めとして、本当にこの多くの刀、これは今、先ほど申しあげたように海外にコレクターがこぞって買い集めに来ちゃっているもの、一度外に流出してしまったら取り戻すことはできません。この地域でしっかりと守っていただきながら、そしてそれを多くの皆さんに見ていただいて、また悠久の歴史を感じていただきたいなとも思っております。

また、この名古屋っていうのは、この武将文化に絡んでまいりますけれども、様々な魅力ある場所、地域事柄があります。

例えば大高城それから、桶狭間そしてまた熱田神宮もそうですし、徳川美術館や様々な武家文化に絡んだ名勝があります。

もう一つは、この地域、戦後初の内閣総理大臣となりました。

海部俊樹先生のご先祖は、元々徳島の海部城の城主さんであったということ、ご本人からずっとお聞きをしておりました。

家康さんにご先祖さんが、名古屋城築城の折に名古屋へ来てくれと招集を受けて、

尾張徳川藩、最後は家老だったということを海部先生からお聞きしておりましたが、そうしたご縁もあります。

多くの魅力がこの名古屋にあることを気づかれてないんじゃないかなと思います。

何かことあるごとに、木造復元、木造復元ばかり名古屋には魅力がないからおっしゃられる方がこの名古屋市の中にはお見えになれるようで、この我々の先輩方が築き上げた方きたこの地域の魅力っていうものを、十二分に磨き上げて、この地域の魅力として、また観光客の獲得にも、インバウンド確保にもしっかりと役立てていただきたい。

そうしたこと心からお願いをさせてもらいまして、時間の都合がありますのでこれに本日のところは終わらせていただきたいと思います。どうぞしっかりと実現を目指して責任あるご検討お願いいたします。

ありがとうございました。

浅井正仁（自民）：続きまして名古屋城木造復元天守閣事業について質問をさせていただきます。びっくりしたな。

2月議会で横井委員が経済水道委員会まで来て、減税の中川委員が市民説明会にサクラを入れたって、爆弾発言があったから、名古屋城の審議はできっこないぞと忠告がありました。

サクラ発言結果的には誰が首謀者かわからず、有耶無耶になっていますが、

まじめに議論してきた議員としましては、はあって感じです。

総務環境の議論を聞いて私はオレオレ詐欺を思い出しました。

犯罪ではありませんが、サクラの動員をオレオレ詐欺に例えるなら、

中川議員に言われて、会場に行った方は受け子

それを支持した中川議員はかけ子、そして黒幕のルフィ役は、あのメールを見る限り田中特別秘書と思えるが、なぜかその前段階のメールがわからないということで、どちらがルフィなのかわからないことになっています。

当然渦中の2人は自分が主犯なのか共犯なのか、潔白を晴らすために日々努力していると思えますが…。

そして委員会で他からもこんな指示があったんじゃないかと言って調べるようになりました。

そしたら前回の2月の委員会でなんと河村市長が職員Aに賛成者を集めろと言ったことが判明しましたって感じです。

これを受けた議会はこの議会に疑惑に関して名古屋城木造復元事業の総点検をして、検証するよう付帯決議をつけました。

その検証で賛成派を集めろと市長が言ったという事実を、市長自らがお認めになっています。なんか市長はそんなつもりじゃなかったとか言っていますけど、市長いいですか。

賛成派を呼んでも、仮に賛成派がその場で何も発言できない説明を聞くだけの形式、いわゆるプレゼンみたいな感じです。だったらその理屈は成り立ちます。

しかし賛成派が発言できる形式で開催する以上、賛成派による発言は当然予見できたはず。

つまり具体的に賛成派として発言しろという指示がなくても、発言の機会があれば発言させるために動員したも同然、いわゆる黙示の指示があったと言えます。要は職員 A がどう感じたとか、どう受け止めれば、どう受け止めたとかにもかかわらず、市長が賛成派を動員しろと言ったのは事実なので、市長は黙示の指示をしたと断定できるということです。

いいですか、単に説明を聞くだけの場所に賛成派を参加させたのではなく、発言の機会がある場所に賛成派を参加させたのが問題なんです。

市長は問題をすり替えています。しかしこうした事実があるのに、観光文化交流局が行った検証は全く市長の発言を問題視すらしていない結論になっています。

これもまたまた、はあって感じですよ。

ところで、この検証資料の中で職員 A の証言だと、市長から「事情を聞きたいから来い」と言われていったとあります。さらに市長の執務室に入った瞬間から、「俺はそんなこと言っとらん」といきなり言われたとあります。

また「市長に言いましたよ」と返したら、さらに市長から「いつ言ったんだ、どういうシチュエーションで言ったんだ」と言われたとあります。このやり取りどうなんでしょうか。職務上の地位が上位の市長が業務上明らかに明らかに必要のないことで呼びつけるという不適当な行為をし、さらにいきなり意見を言ったり必要に持論を繰り返す行為は問題があると思います。

今回の事例で考えれば、職員 A は恐怖を感じるどころか、市長に言い返せるような職員だったので、パワハラには該当はしないということになります。しかしこの職員 A が、私のように、気の弱い人間だったら市長にいきなり意見を言われたら「怖い。どうしよう」って思っちゃいますよね。

この後はコンプライアンスとして総務環境さんの方でしっかりと議論をしていただきたいと思っております。

さて所管事務調査の冒頭で、局長は市民の疑念を払拭することを最優先と言われました。私はほおと思った。なぜなら後付けの理由で、サクラも動員もなかったと結論付けをしただけ。

「賛成者を集めろ」と言った市長の発言が問題なのにそこは一切検証しない観光文化交流局本当にはあだわ。市民の疑念を晴らすことを最優先に検証するとそういうことが、議長さんちょっと静かに。市民の疑念を晴らすことを最優先に検証するといった局長の言葉は、発生を求めるこれが案外的な令和の元号は誰

(市長に申し上げます。発言中ですから、今時間もありますので、静かにしてください。発言中です。その権利はありません。発言ごめんなさい。)

始めます。市民の疑念を晴らすことを最優先に検証するといった局長の言葉は、表向きで、真実は市長の疑念を晴らすことが最優先だったと言わざるを得ません。

私はそんなつもりで総点検をしてくれと言ったわけではないし、当局は付帯決議を受けて検証したいと言いながら、付帯決議そのものを検証しており、一体何をやってるのかというのが正直な感想です。

先日の経済水道委員会でも総点検に市民討論会の検証も入れるよう要望しましたが、当局の回答は、人権の検証委員会の最終報告が出るまで市民討論会の検証はしないというものでした。

ではこれから名古屋城天守閣事業について、昨年来行われている検証を中心に進めていきたいと思います。この討論会もですね、それだけじゃなくて中川議員のサクラ発言と中川文化小劇場で行われた市長説明会は1年近く時間が開いているから、関連なしという何の根拠もない結論になっています。

私は全く納得ができない結果だと思っています。

それで今回の資料、経済水道の資料をこれをぜひとも人権の検証委員会にも提出していただきますように、お願いしたいと思っています。

そして人権の検証委員会ですが、昨年8月から精力的に検証を進めていただき、今年の2月16日に中間報告が出されました。

そこで私は大変興味深い一文を見つけました。

それは市民対話を通して、バリアフリーの案を策定するには2年はかかる見込みという一文を見つけました

それが、そのときに観文の方にこの意味を教えてくれと言って言ったときに資料をいただきました。それがこの資料です。

木造天守バリアフリーの今後の検討について。見えなくて、いいですか。

この木造天守閣バリアフリー今後の検討についてという資料。この文章ご存知だと思います。そこでまずこの文章は公文書として存在するものなのか、公文書であるとしたら何に使われた文章なのか、以上2点を観光文化交流局長にお伺いさせていただきまして、1回目の質問を終わらせていただきます

佐治観光文化交流局長：観光文化交流局につきましては浅井議員が今提示された資料のその公文書に当たるかどうかまたその目的についてお尋ねをいただきました。

まず公文書に当たるかどうかでございますが、局の職員が作成した文書ということ私も確認しておりますので、これは公文書に該当するということでございます。

それから目的でございますが、当時ですね、そのバリアフリーの対策としまして、大天守の1階まで施す場合、から最上階まで施す場合、それからさらに市民対話を通じてバリアフリー策定する場合この三つに分けていろいろ検討しておりますので、その検討結果を説明するために作った資料、そういったことでございます。

以上でございます。

浅井正仁（自民）：それから、名古屋城は再質問させていただきます

さて名古屋城ですけども、この資料はね。

令和5年1月に松雄副市長に説明を行った際に使った資料と、ということで聞いております。それでですね、この令和5年1月に松雄副市長はこの観光文化交流局から市民の対話のための方策からバリアフリーの方針の検討までに約2年程度必要。さらに文化庁への提出は現市長の任期後となるという説明を受けたと思います。それがここに書いてあります。市民との対話のための方策方針からバリアフリーの方針の検討まで2年間必要。バリアフリーの方針の策定および整備方針計画の文化庁への提出は、現市長の任期後となる。これが観文が出した結論だと思います。これを副市長のところへいったと思います。1月の19日かな。これを聞いたとき副市長は、何と言われたのか、教えてください。

松雄副市長：ただいま議員からお尋ねをいただきました木造天守バリアフリーの今後の検討についての資料でございます。私もあの観文局から資料を取り寄せました。

ただ恐縮ではございますが、観文局から説明を受けた記憶もなく、私自身承知をいたしておりません。

仮に説明があったといたしましても、当時の局長折戸局長でございますけれども、令和4年3月16日の経済水道委員会、令和4年10月5日の同委員会におきまして、解体と復元を一体とした全体計画を何としてでも令和4年度末までに取りまとめるよう局職員一致団結して、全力で取り組んでまいりますとの答弁をいたしておりますので、この答弁私と同じ思いでございますので、仮にこの説明があった、すなわち、バリアフリーの方針の検討まで約2年程度必要であるというふうな説明を受けたとしても了知いたしません。

以上でございます。

浅井正仁（自民）：ですね、記憶がないと言われれば、その先の質問にはいけないと思うんだけど。

1月の19日13時30分から14時30分、観文の職員が、1、2、3、4、5、6名副市長のところにいます。だからやっぱり、この想定リスクね。

想定リスク、市民との対話のための方策の検討および市民との対話に約1年、天守全体のバリアフリーの方針の検討に約1年必要となり、現在より約2年程度は検討期間、現在より約2年程度は検討期間となるとされています。

要は、職員はね、市民に説明をすることに2年費やしたい。

先ほど副市長が仮の話をされた。そもそも記憶がないのに仮の話をするのは僕はおかしいと思う。でも仮の話をすれば、先ほどね、局長さんが言った答弁だとね、これおかしな話なんだよね。

先ほど局長は何て言ったかな、令和4年の3月16日だとか、令和4年の10月の委員会でおいてって言ってんだけど、これが出たのは令和5年の1月19日に、これを副市長に見せてるんですよ。副市長の心変わりが始まったのは12月なんですよ、それまでは最上階を目指すと言ってた。



しかしこの中間報告を見ると、副市長の心変わりがしたのは12月なんですよ。だからさっき言った令和4年の話は、その前の話なんですよ。それを仮の話でされても、全くもってよくわかんない。というところで、もう時間もなくなるんでももうやめますけど。副市長に一つだけ。昨日、市長はプロセスが間違っているなら白紙に戻すと言われたね。副市長、だったらこの名古屋城のプロセスは間違っていないのかどうか。副市長、お願いします。

松雄副市長：名古屋城のプロセスにつきましては、市民の皆様にも節目節目で説明をしておりますし、議会の皆様にもいろいろご指摘をいただきながら説明をして進んでまいりますので、私プロセス自体については決して間違っていないと、いろいろ問題はありますけれども、というふうに考えております。

浅井正仁（自民）：プロセスが間違っていないなら、なんで今、人権の委員会やってんの。お答えください。

松雄副市長：人権の問題につきましては本当に申し訳ないというふうに思っております。これはこれでしっかりやっぱり始末をつけなくちゃいけないというふうに思っておりますけれども、名古屋城全体のプロセスにつきましては、非常に私どもは丁寧に説明をしていると、課題はありますけれども、一步一步現状の課題をクリアしながら進めてまいりますので、ご理解を賜りたいと思います。

浅井正仁（自民）：結局最初からね、言ってたエレベーター問題。ね。そして基礎構造。最初っから私はここが一番の課題になるって言ってましたよ。で、このバリアフリーについても、あなたたちは最初は本当に物ができてから、ね、障害者の人に理解を得る。それが職員の言う2年だったはずだと思うんだよね。それをある日突然、8月の復元検討委員会、職員の方は、あなたにこれを説明いった時に、あなたは駄目だって言ったらしいじゃないですか。この辺も踏まえて、一端、本当に検証委員会で上げていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいということで、私は今回はこれで終わらせていただきます。ただね、そこの皆さんに言いたいのは、このA職員と僕は話す機会がこの間ありました。僕はA職員に言った。「あんたは勇気あるね。」権力者に向ってよう怯るまずに言ったねって言ったら、そのA職員は言った。「それが事実だからです」ね。以上で終わります。

藤田和秀（自民）：今ちょっと静かにしていただきます。

発言中で静かにしてください。あなたのそういうところが混乱を招くんだから静かにしてください。はい、すいません。

先ほど来、我が会派の浅井議員の登壇中の発言に対して、市長の方から全てを聞き取ることは私はできませんでしたが、録画してくれ。訴えるぞ。

名誉毀損だ、こうした発言が、壇上の発言中にございました。議長さんからもご注意はいただきました。こうしたことはもう今まで縷々何度も繰り返されてきております議長が注意をしても、なかなか従っていただけない、そうした非常におかしい様子も私どもこの十数年、幾度も見てまいりました。

ここで議長にお願いがございませぬのは、市長のいわゆる不規則発言ではございませぬけれど、先ほど私が指摘をいたしましたこうした文言の発言については、議事録においてしっかりと後に残していただきたいということで、今速記者がもうおりませぬので、録音に頼っておるという現状であります、拾い切れる限り聞き取れる限り、ぜひとも正式な議事録にこの市長の不規則発言、記載して残していただくようにご配慮いただきますようによろしくお願いいたします。

議長：ただいま藤田和秀さんの議事進行に関して関しましては議長として、後日精査してそのように、ごめんなさい、鋭意精査して、この場ではごめんなさいね、この場では即判断はしかねますので後日鋭意精査して、理事会、議会運営委員会と相談しながら決めていきたいと思っておりますので、よろしくご理解ください。

では以上で議案が質問を終わります。

以上をもちまして本日の日程は全部終了いたしました。

本日はこれをもって散会いたします。

お疲れ様でした。